

## 第6回栽培・飼育教材開発コンクールの審査結果と講評

審査委員長 平尾健二

幼児教育・保育施設、小学校、中学校、高等学校ならびに特別支援学校の教員を対象に、昨年度、第6回栽培・飼育教材開発コンクールを開催いたしました。以下、審査結果と講評についてご報告いたします。

本コンクールの内容として、以下の2部門を設定し募集を行いました。

(応募期間 2024年11月1日～2025年1月13日)

① 人格形成・知識理解部門

・・・子どもの人格形成・発達や、基礎的知識の習得に関する教育  
(主に幼児教育・保育施設、小学校、中学校、特別支援学校)

② 農業技術・農業人材育成部門

・・・農業に関わる専門的技術・人材の育成に関する教育  
(主に中学校、高等学校)

今回は、2部門合計で8件の応募をいただきました。まずは、応募いただきました各先生方をはじめ、ご協力いただきました学校関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| ① 人格形成・知識理解部門   | 応募数：1件 |
| ② 農業技術・農業人材育成部門 | 応募数：7件 |

審査は、委員長：平尾健二（学会副会長・福岡教育大学）、審査委員：勝川健三（弘前大学教育学部）、門脇正行（島根大学生物資源科学部）、小泉匡弘（北海道教育大学旭川校）、鎌田英一郎（長崎大学教育学部）の5名で実施しました。各審査員による事前評価、オンラインによる審査会を行い、最優秀賞2件、優秀賞1件を選出しました（下表）。惜しくも受賞には至りませんでした。さまざまな興味深い教材開発におけるお取り組みをご紹介いただきました方々には奨励賞をお贈りすることとしました。ご応募いただきました皆様の教材研究に対する熱意、ご尽力に対し、心より敬意を表します。

各賞の受賞者には学会から表彰状と記念品を贈呈いたしました。また、審査結果として、各審査委員からの評価・アドバイスをまとめたものを講評として、お送りいたしました。今後の教材開発研究の参考にしていただければ幸いです。

## 第6回栽培・飼育教材開発コンクール受賞教材（作品）

### ① 人格形成・知識理解部門

最優秀賞 大野 康德（大阪府豊中市立小曾根小学校）

環境再生型農法 おぞねファームでつながる食育・環境教育・防災

### ② 農業技術・農業人材育成部門

最優秀賞 國井 愛（北海道旭川農業高等学校）

バガスを活用した新たな資源循環型農業の実践

優秀賞 池田 修一（栃木県立那須拓陽高等学校）

農業用水路の新設（二次的自然再生のモデルとして）

- ① 人格形成・知識理解部門における最優秀賞は、大阪府豊中市立小曾根小学校の大野康德先生による「環境再生型農法 おぞねファームでつながる食育・環境教育・防災」でした。本教材は、都市部にありながらも、小学校内に作った環境再生型農法による農園を舞台に、食育、環境教育、防災教育を通じて、多くのことに児童による気付きが生まれる仕組みを作り上げ、児童が五感を使って学び取る多くの活動を展開しているところが高く評価されました。
- ② 農業技術・農業人材育成部門における最優秀賞は、北海道旭川農業高等学校の國井愛先生による「バガスを活用した新たな資源循環型農業の実践」でした。本教材は、バガスという循環可能な資源を題材とし、物質循環とその社会実装について学びを深められる大変意義のある内容であること、学習指導計画の記述をもとに、他の学校でも取り組みやすく、生徒に理解もしやすい内容であることが高く評価されました。さらに、栃木県立那須拓陽高等学校の池田修一先生による「農業用水路の新設（二次的自然再生のモデルとして）」が優秀賞に選ばれました。

今回応募いただいた開発教材については、地域の特徴を活かし、その活性化を念頭に置いたテーマ設定が多く、具体性に富んだものが多かったことが注目されました。どれも地域との協働的なつながりを大切にしながら、児童生徒のみなさんが明るい未来を展望できる教材でした。農業教育における実践事例研究として、ぜひ、本学会の講演会において、ご紹介いただきたいと思います。一方で、応募者の増加には至らず、本コンクールの周知、認知度を高める努力が必要であると痛感しております。特に部門①「人格形成・知識理解部門」の小・中・特別支援学校等を対象にしたお取り組みに光を当てる必要があります。学会員のみなさまにおかれましても、周辺ですばらしい教材開発をなさっておられる学校、教員がおられましたら、本コンクールについてぜひご紹介ください。

次回のコンクールにおいても、さらに多くのご応募を期待しております。